

(報告) 21年度 ユーザー理解活動

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

2022年6月8日

《目次》

1. 2021年度 ユーザー理解活動に要した費用	・・・ P2
2. 第5回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果	・・・ P4
3. JARCウェブサイトへのアクセス状況	・・・ P6
4. ニュースリリースの配信結果	・・・ P7
5. 運転免許教習生の関心を高める取組み結果	・・・ P8
6. 定期刊行物を活用した情報発信の結果	・・・ P9
7. 動画コンテンツを使った関心を得る取組みの結果	・・・ P10
8. ユーザーの関心事に応じたコンテンツ創造と発信	・・・ P11

1. 2021年度 ユーザー理解活動に要した費用

ユーザー理解活動に要した費用は、**23,031万円**（予算執行率：87.9%）であった。
 新型コロナの影響等により一部活動費（下表# 1、# 5、# 6）が減少した。
 一方、代替策の実施により一部活動費（下表# 3）が増加した。

＜ユーザー理解活動に要した費用の内訳＞

（単位：万円）

#	取組の方向性	施策例	年度 計画額 ①	年度 決算額 ②	執行率 ②/①
1	全国万遍なく、環境関連イベントに出展し、自動車リサイクルの取組・成果の認知向上の機会を創出する	● 地域イベントへの出展による普及啓発 ● 常設展示施設を活用した普及啓発 他	2,350	1,316	56.0%
2	若年層に向けた情報発信を強化する	● 自動車リサイクルの取組みを紹介 ● 作品コンクール実施による普及啓発 ● 運転免許教習生の認知拡大と関心喚起	8,050	7,265	90.2%
3	各種メディアを活用して露出を高める	● 動画配信による認知拡大と関心喚起 ● ユーザーの関心事に応じた情報提供	12,500	13,155	105.2%
		● ニュースリリースの積極配信 ● その他のパブリシティ活動	0	0	—
4	身近なところから、ユーザー視点で分かりやすい情報へと改善を行う	● 公式ウェブサイトによる情報発信 ● チラシ・ポスター等の広報ツールの改善	1,650	1,211	87.8%
5	自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する	● ユーザーの認知状況の把握 ● 情報発信の効果検証 他	650	84	12.9%
6	広報・PRの専門家を助言や支援を受けながら、質の高い情報を、効果的に発信する	● 新規取組の実務支援 ● リスク低減の観点での支援 他	1,000	0	—
合 計			26,200	23,031	87.9%

*合計額には、人件費・管理費等を含まない。 ユーザー理解活動に要した費用は特預金と繰越金から負担される。

#	主要な施策とその実績（まとめ）
1	●全国地域イベントでの取組み： ・地域イベントに出展を通じて地域ユーザーへの普及啓発を行った。（内訳：オンライン出展8か所、パネル展示7か所、リアル出展2か所） ●常設展示施設での取組み： ・東京・大阪の展示施設を活用を通じて来場者への普及啓発を行った。（内訳：東京年181,704人、大阪年15,294人） ※東京：科学技術館、大阪：おおさかATCグリーンエコプラザ ●運転免許センターでの取組み ・神奈川県警察運転免許センターの協力を得て、自動車リサイクルに関する“ちらし・冊子”を備え付け開始。
2	●小学生の学校教育と連動した取組み： ・中止した第4回作品コンクール表彰式の替わりとして、個別訪問表彰を実施。全国11か所を訪問し表彰を実施。 ・コロナの影響により中止した自動車リサイクルの現場見学会の代替策として自動車リサイクル博士が現場を紹介する施策を6回実施。その紹介記事を小学生新聞等の各メディアで約144万部展開。また、全国小学校等に延べ3万か所配付。 ・三菱自動車の協力を得て、小学校3校（254名）の生徒を対象とした自動車リサイクルに関するLIVE授業を実施。 ・「クルマのリサイクル作品コンクール」を主催。全国から218団体、9,995件の作品を受領。 ・自動車リサイクルの関係者とともに入賞作品を審査・決定。入賞者を対象とした表彰式をオンラインで実施。 ●運転免許教習生に対する取組み： ・運転免許学科教本（約80万部）に自動車リサイクルに関する情報掲載。自動車教習所大手250か所で動画配信（約91万回）。
3	●ニュースリリースの積極的配信 ・効果的な広報活動の一環としてニュースリリースを合計23回配信。当該情報がネットメディアに1,257件転載。 ●メディアミックスによる効果的な取組み ・各種イベントへの出展のタイミングで“映像”と“音”によるわかり易い広報映像を地上デジタルで1,338回、BSデジタル放送で279回配信。 ・自動車専門紙ベストカー約23万部、driver約18万部、CAR and DRIVER約16万部、ソトコト約10万部の刊行物を用いて展開。 ・Google、Yahoo！等のネットメディアを活用した取組を実施（表示回数：836,563件、クリック数：28,253件）。 ・第5回「クルマのリサイクル作品コンクール」表彰式の入賞結果を全国紙と地方紙を合わせて約730万部展開。
4	●公式ウェブサイトを活用した情報発信と改善 ・年間通じてタイムリーに自動車リサイクルに関する情報を発信。公式ウェブサイトへのアクセス数は年間873千件（前年度比116.3%）。 ●自動車リサイクルの取組みを集約したオンラインの特設ページを新たに制作、利用促進に向けた取組み ・10/29 特設ページ（自動車リサイクルタウン）を新たに開設し、利用促進に取り組んだ。特設ページへのアクセス数は31,465件。
5	●各種ユーザーニーズの把握 ・ユーザーを対象としたアンケート調査の結果、自動車リサイクルに関しての認知度は約74%（前年度約71%）。 ・作品コンクールに関して小学校から得た74件のアンケートから、各種ニーズを把握。

2. 第5回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果 その1

9/1から2/28にかけて**218団体**から**7,995件**（前年度10,127件）の作品を受け付けた。
3/11、自動車リサイクルの関係者とともに入賞作品を審査・決定した。
3/29、入賞者とJARC（東京）をオンラインで繋いだ表彰式を開催した。

1. 入賞結果

※入賞作品の情報は次のURL参照：https://www.jarc.or.jp/competition_count/contest2021result/

（1）最優秀賞

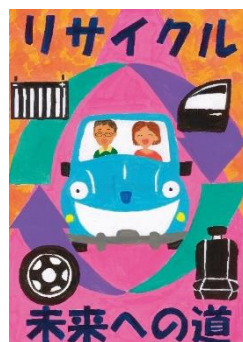


佐藤妃菜多（さとうひなた）
愛知県武豊町立
緑丘小学校

合い言葉 クルマくるくる リサイクル

益子珠嘉（ますこみひろ）
東京都北区立
第四岩淵小学校

（3）審査員特別賞



吉田有里（よしだゆり）
北海道教育大学附属
札幌小学校



山田夏実（やまだなつみ）
神奈川県秦野市立
鶴巻小学校

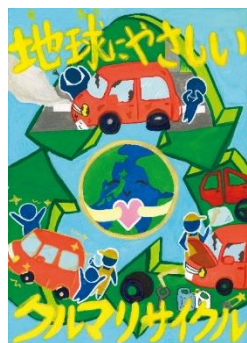


門久和奏（かどひさわかな）
鹿児島県薩摩川内市立
平佐西小学校



新田彩陽（にったいろは）
北海道千歳市立
北陽小学校

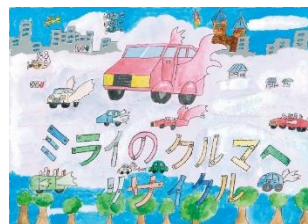
（2）小学生新聞賞



山口葵（やまぐちあおい）
愛知県春日井市立
岩成台西小学校

自動車は リサイクルされ すぐそばに

水元智也（みずもとともや）
千葉県市原市立
清水谷小学校



内田かおる（うちだかおる）
千葉県松戸市立
殿平賀小学校

その愛車 貴重な資源に 姿変え

川坂結希南（かわさかゆきな）
東京都練馬区立
大泉第六小学校

リサイクル つくるまえから かんがえる

坂口舞（さかぐちまい）
神奈川県横須賀市立
津久井小学校

生かそうよ クルマの資源 未来へと

山崎水咲子（やまざきみさこ）
大阪府和泉市立
いぶき野小学校

2. 第5回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果 その2

(4) 団体賞

大阪府池田市立池田小学校
茨城県守谷市立黒内小学校
徳島県美馬市立江原南小学校
愛知県小牧市立村中小学校
埼玉県坂戸市立勝呂小学校
広島県東広島市立郷田小学校
東京都江東区立枝川小学校
東京都稲城市立若葉台小学校
北海道帯広市立豊成小学校
東京都世田谷区立玉川小学校

(5) 団体特別賞

鹿児島県瀬戸内町立池地小学校
岐阜県恵那市立中野方小学校
石川県輪島市立三井小学校



入賞者に授与したメダルと副賞（リサイクルガラス）

2. 表彰式の実施状況

コロナ禍により小学生等の入賞者の面着による表彰式の開催は困難。
関係者との協議を踏まえ、入賞者とJARC（東京）をオンラインで繋いだ
表彰式を開催。



オンライン表彰式への参加者



オンラインによる表彰の情景



受賞の様子



表彰後の集合写真



表彰後の取材対応



式開催場所

3. JARCウェブサイトへのアクセス状況

2021年度のJARCウェブサイトへのアクセス数は**873千件**(前年度比116.3%)であった。クルマのリサイクル作品コンクールに関するページを起点として、自動車リサイクル制度ができた背景やその概要ページを周回する傾向が観られた。結果、各ページの閲覧数の底上げを図った。

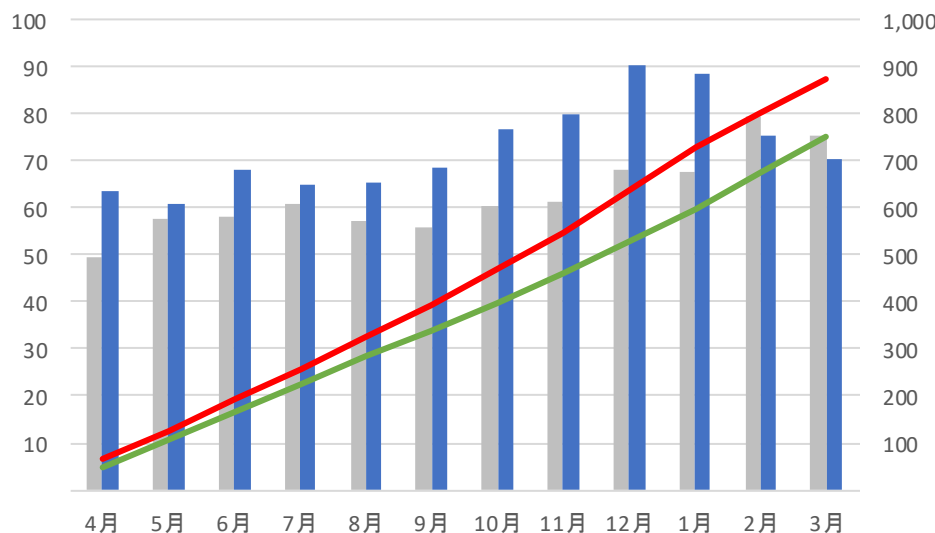
(1) 年間 アクセス数の推移

(単位：千件)

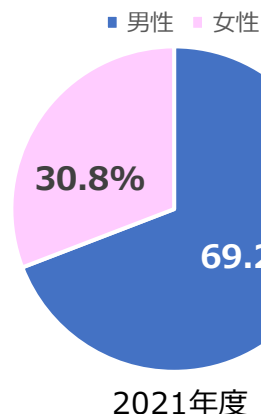
	年度		
	2019	2020	2021
アクセス数	652	751	873

(2) 月間 アクセス数の推移

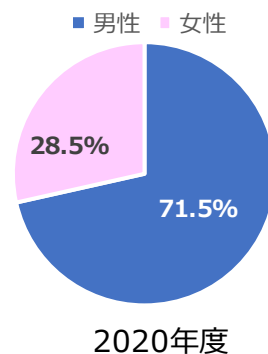
(千件) 20年度 21年度 21年度累計 20年度累計 (千件)



(3) 男女比



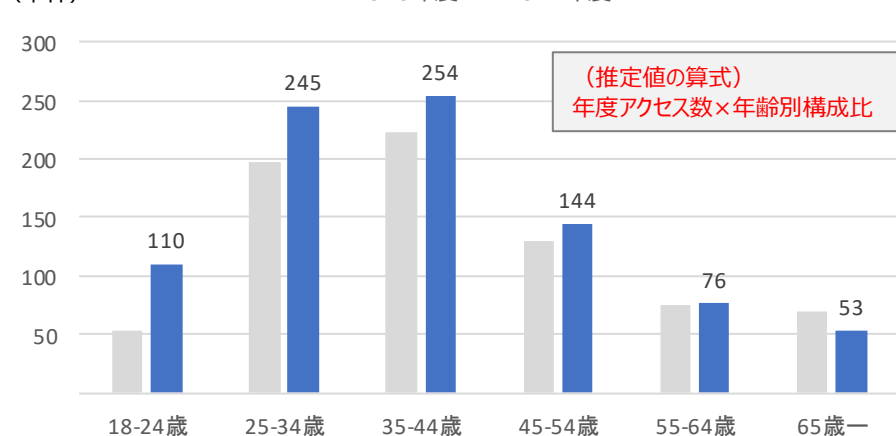
(参考)



(4) 年齢別アクセス数 (推定値)

(千件)

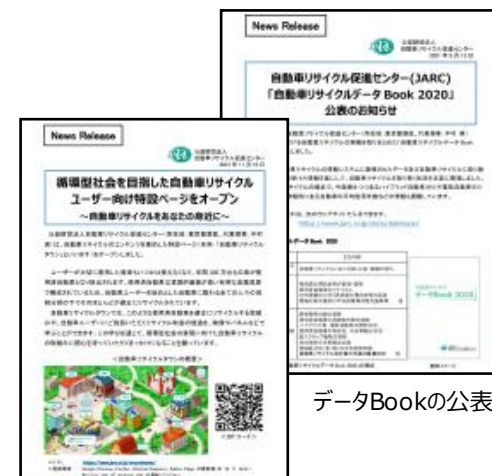
2020年度 2021年度



4. ニュースリリースの配信結果

ニュースリリースを**23件配信**した。配信した情報がネットメディアに**1,257件掲載**された。

ニュースリリース（一例）



特設サイトのオープン

（参考）インターネットメディア例

毎日新聞、朝日新聞、四国新聞、京都新聞、奈良新聞、山形新聞、福井新聞、沖縄タイムスプラス、紀伊民報、千葉日報、宮崎日日新聞、新潟日報、茨城新聞、徳島新聞、福島民友、紀伊民報、山梨日日新聞、河北新報、上毛新聞、秋田魁新報、下野新聞、週刊女性PRIME、AFP BBNews、楽天 NEWS、Google ニュース、Impress Watch Headline、excite ニュース、J-CAST ニュース、CNET Japan、他

	配信日	内容	掲載数 (件)	広告換算* (万円)
1	4/10	令和 3 年度事業計画を策定	985	26,616
2	5/21	鉄道建設・運輸施設整備支援機構 発行のサステナビリティボンドに投資		
3	6/23	国際協力機構発行のソーシャルボンドに投資		
4	6/25	東京都発行のソーシャルボンドに投資		
5	7/9	東日本高速道路株式会社 発行のソーシャルボンドに投資		
6	8/6	川崎市発行のグリーンボンドに投資		
7	8/13	「自動車リサイクルデータ Book 2020」を公表		
8	9/1	第 5 回「クルマのリサイクル」作品コンクール開催		
9	9/10	東京都住宅供給公社発行のソーシャルボンドに投資		
10	10/8	長野県発行のグリーンボンドに投資		
11	10/14	北九州市発行のサステナビリティボンドに投資		
12	10/15	東京都発行のグリーンボンドに投資		
13	10/22	神奈川県発行のグリーンボンドに投資		
14	11/16	ユーザー向け特設ページをオープン		
15	11/18	クルマのリサイクル作品コンクール入賞作品 6 0 点を展示		
16	11/25	環境学習パビリオン「エコスタディールーム Online」に出展		
17	12/10	独立行政法人福祉医療機構発行のソーシャルボンドに投資		
18	12/10	沖縄振興開発金融公庫発行のサステナビリティボンドに投資		
19	1/14	福岡市発行のグリーンボンドに投資	56	1,433
20	1/14	JARCのESG投資 開始3年で100億円到達	54	1,423
21	2/4	中部国際空港株式会社発行のソーシャルボンドに投資	57	1,431
22	2/18	東京都発行のソーシャルボンドに投資	53	1,421
23	2/22	三重県発行のグリーンボンドに投資	52	1,414
合 計			1,257	33,737

*メディアに記事掲載された際の露出効果を、同じ枠を広告として購入した場合の広告費に換算したもの

5. 運転免許教習生の関心を高める取り組み結果

自動車リサイクルに関する情報を運転免許学科教本**約80万部に掲載**、全国250か所の教習所で動画を**約91万回**配信した。また、運転免許教習生を対象とした自動車リサイクルに関するアンケート調査を実施した。

(調査概要)

全国10か所の自動車教習所でアンケート調査を実施。(北海道、青森、山形、群馬、神奈川、静岡、愛知、和歌山、島根、宮崎)

調査対象：運転免許教習生、調査方法：留置法、調査会社：日本カーライフアシスト株式会社

■2021年8月：サンプル数1045件、20代以下：884件(全体の約85%)、視聴率：49.2%、動画視聴者の認知度：90.9%

■2022年2月：サンプル数1035件、20代以下：922件(全体の約89%)、視聴率：43.6%、動画視聴者の認知度：92.7%

(Q)「自動車リサイクル」のこと、どの程度ご存じですか？

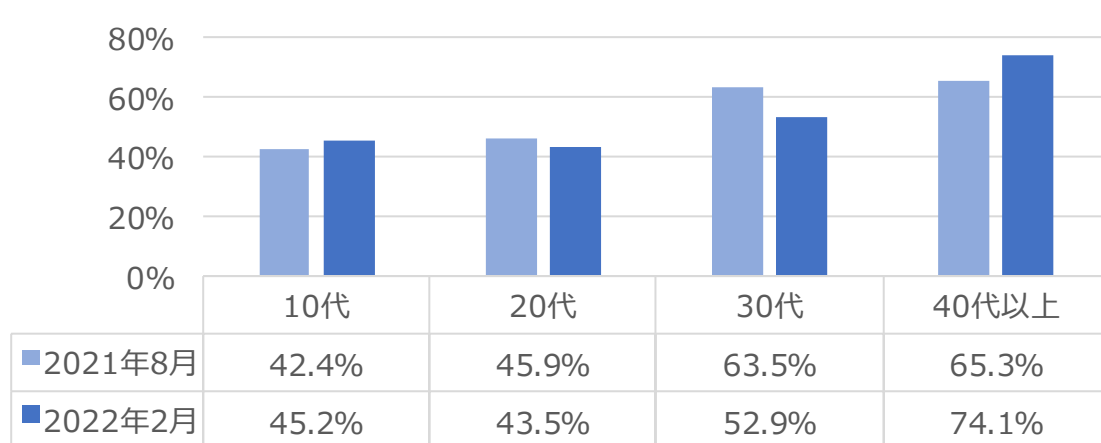
(A) ①どんな仕組みか概要を知っている ②名前を聞いたことがある程度 ③まったく知らない

(教習所の情景)



「①どんな仕組みか概要を知っている ②名前を聞いたことがある程度」を選択した割合

■ 2021年8月 ■ 2022年2月



(配信期間)
2021年4月
～8月配信



(配信期間)
2021年9月
～3月配信



6. 定期刊行物を活用した情報発信の結果

自動車に関心を持つユーザー層を対象にするため自動車専門誌である①ベストカー（8/26、約23万部）、②driver（11/16、約18万部）、③CAR and DRIVER（2/25、約16万部）の3誌に自動車リサイクルに関する企画記事を掲載した。これら読者に対して各々アンケート調査を行い、自動車リサイクルに関する認知状況を確認した。

【調査概要・結果】

対象：①②③の読者、回収数：各々300件、実施方式：インターネット方式（調査会社：楽天インサイト）

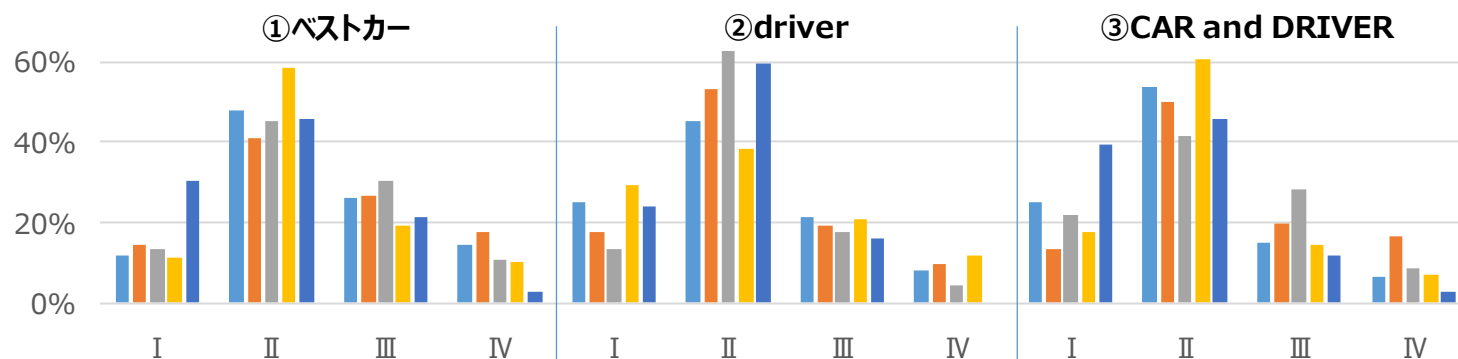
自動車専門誌	①ベストカー	②driver	③CAR and DRIVER
調査期間	2021年9月3日～5日	2021年11月25日～26日	2022年3月4日～6日
記事への接触率	73.0%	93.0%	84.7%
自動車リサイクルの認知度	*「良く知っている」「少しは知っている」「名前だけは知っている」を選択した方の割合		
	88.4%	92.7%	91.3%

80% — 【年代別 認知状況】 — 20代 30代 40代 50代 60代

【Q】あなたは自動車のリサイクル制度をご存知ですか

【A】次から選択してください

- I：良く知っている
- II：少しは知っている
- III：名前だけは知っている
- IV：全く知らない



7. 動画コンテンツを使った関心を得る取組みの結果

“映像”と“音”によるわかり易いメッセージを地上デジタル放送で**1,338回**およびBSデジタル放送で**279回**配信し、**延べ1億9,674万世帯**のユーザーに情報を届けた。

(1) BSデジタル放送での動画配信計画

日時を固定し、特定の番組で動画を特定の視聴者に向けて配信。

配信エリア	区分	配信期間	番組名	放送局、配信帯	配信回数	番組の特徴
全国	BS	4月から9月	BSフジプライムニュース	BSフジ、月から金20時から	131回	BS局初報道番組として地上波ニュース番組との差異を認知されている番組
全国	BS	10月から3月	日経モーニングプラスFT	BSテレビ東京、月から金7時から	123回	日経新聞や英国「フィナンシャル・タイムズ」(FT)と連携した国内外のニュース
全国	BS	10月から3月	おぎやはぎの愛車遍歴	BS日テレ、土曜日21時から	25回	「愛車遍歴を辿れば、その人の人生が見えてくる！」カートークバラエティ

(2) 地上デジタル放送での動画配信計画

地域イベントへの出展のタイミングで動画を地域ユーザーに向けて配信。

配信エリア	区分	配信期間(予定)	獲得延べ視聴率	配信回数
北海道	地上	1月10日から2月6日	各都道府県における 世帯視聴率 600%以上	1,338回
東北	地上	9月3日から9月30日		
北陸	地上	8月21日から9月17日		
中部	地上	9月3日から9月30日		
近畿・東海	地上	9月20日から10月17日		
中国・四国	地上	8月21日から9月17日		
九州・沖縄	地上	10月4日から10月31日		



配信動画
「自動車リサイクル 地球もクルマも回ってる」編

4/5、SDG s や環境に関心もつユーザーに向けて、自動車リサイクルに関する情報を発信した。（記事は、[こちら](#)）



長野県小布施町役場総務課課長兼総合政策推進室室長の太富通さんが、自治体として考えたいべき自動車リサイクルのあり方について、
「自動車リサイクル促進センター」(以下「JARC」)
再資源化支援部の課長・鶴田機裕さんに話を聞きました。

大富 津波だけでなく、近年は異常気象などによる河川の氾濫や土砂災害が頻発しています。小倉町町民2019年の台風19号災害で、町が処理する被災自動車は聞かなかったものの、住宅の浸水などにより甚大な被害がありました。もちろん、災害発生後、被災者への支援や被災地の復興支援は必要です。被災者支援と被災地復興支援を策定してやるべきです。

[illegible]

鶴田 雅裕
つるた・まさひろ ●「自動車リサイクルセンター」再資源化
技術課長。旧企業界は、難民対策支援事業（海上輸送費支
援）、不法投棄対策支援事業（自治体による行政代執行へ
支援）、自動車リサイクルに関する血液技術者向けの研
究自治体による救急血液処置に関する情報提供など。

「自動車リサイクル促進センター」
環境に配慮した快適なクルマ社
会を目指し、自動車リサイクルの
環境整備を推進する公益財団。

力を踏まえながら、全国規模で適性なりサイクル処理の連携ができてい
る。同時に、素材のカーボン化やE
Vへの転換など、今後車の技術革
新が予想される中、自治体としては

大宮 修理やタイヤの交換などでお世話になる地域の「車屋さん」は身近な存在。そして彼らの向こう側に資源を生かす多様な生態系があるこ

地域的事業者がその変化に対応できるのか気になるところです。

鶴田 実は稼働している事業者数は年々減少傾向にあります。背景には少子化や事業の統廃合などさまざまな要因があります。持続可能な仕組みとしていくためには、稼働してい

解体や破産を担う事業者の観点、実際にリサイクル料金を負担するユーザーの視点なども織り込みながら取り組みを進めているところでです。JARCでは、使用済み自動車の過

意見もあります。ただ、車を適正にリサイクル処理する際、都道府県をまたいで、さまざまな事業者が関わっているのが実態です。リサイクル処理をする上で事業者の得意分野やコスト面などを勘案しながら、ビジネスにしているのです。局域で被災自動車が発生した場合、その地域で

提供するだけでなく、白動車リサイクル制度に関わるステータホルダーをつなぐ活動なども行っています。

大宮市布衣町と同関係部署と相談しながら、地域内の事業者が持続可能な経営を行えるよう、情報共有を求めたいと感じました。今日はありがとうございました。

自動車リサイクル制度において役割を担われるステークホルダーをつなぐ活動は地域の活性化にもつながります。

災害発生時における
仮置き場の問題、勉

大富 通

おおもや・とおる●33年山形県生まれ。小石川町和歌山議員会議員、衆議院議員、東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院工学系研究科修了。33年の第1回「小石川町青年会議所」の立ち上げに参加したことを機に、33年に小石川町に移住。その後、小石川町役場の地方創生主任役員として地方創生の政策を推進。積極的である。

まとめ

1. 21年度活動の成果

新型コロナの影響により、直接ユーザーとコミュニケーションを図る機会は減少したものの、自動車リサイクルの関係者の力強い支援を得て、幅広いユーザーに質の高い情報を届けることができた。

結果、本財団ウェブサイトへのアクセス数増（前年度比116.3%）につなげることができた。

2. 22年度活動の方向性

- 自動車リサイクルに関するユーザーの認知度は21年度から上昇傾向になったものの、引き続き、ユーザーの「認知の拡大」・「関心の喚起」に向けた取組みの改善を進める。
- ユーザーが自動車リサイクルの「現場・現物・現実」に接する機会を創出・拡大することにより、「認知拡大」・「関心喚起」に向けたこれまでの取組みに加え、ユーザーの行動変容にも資する「理解の深化」にも力点をおいて情報を発信する。
- ユーザーの自動車リサイクルの理解を更に進めるために、ユーザーの理解の状況についても把握できないか検討・実施する。